

【概況】

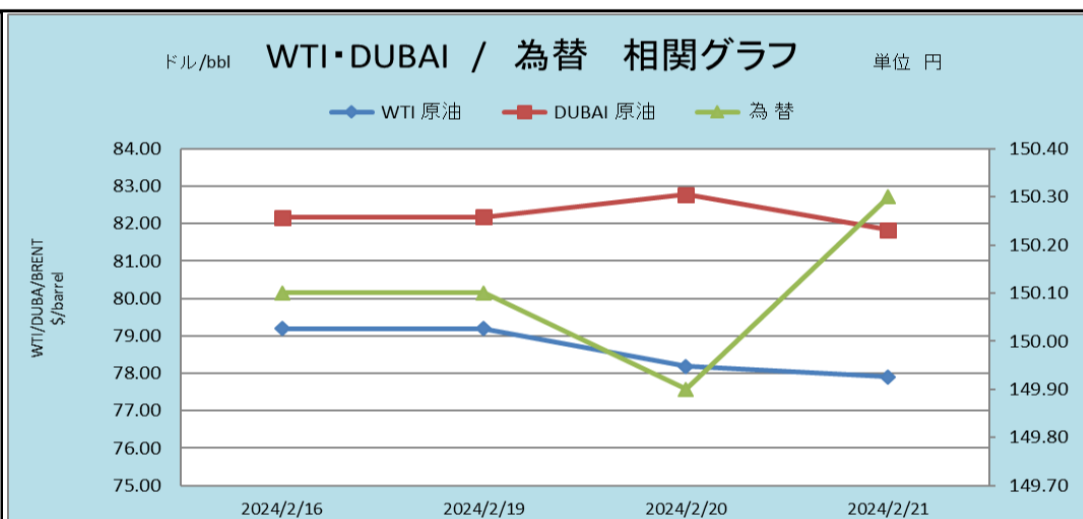
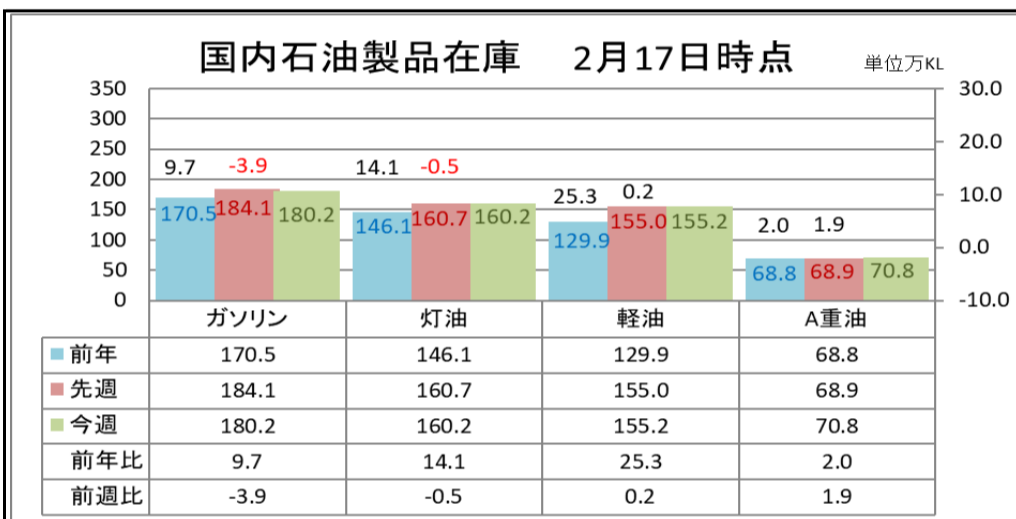
●16日、WTIは79.19ドル(前日比+1.16)。パレスチナ自治区ガザ南部ハンユニスで最大規模のナセル病院に部隊を突入させた。軍報道官は「精密かつ限定的な作戦だった」と述べた。また同軍は16日、前日の作戦でガザ全土に空爆を加えたと明らかにした。中東情勢の緊張が高まる中、供給混乱への警戒感が広がり、原油価格を押し上げた。米プレジデントデー(19日)に伴う3連休を控えてポジション調整目的の買いも入ったもようです。ただ、石油需要減退への懸念がくすぶり、相場は早朝から午前にかけて、相場は一時マイナス圏に沈む場面もありました。

●20日、WTIは78.18ドル(前日比-1.01)。国際エネルギー機関(IEA)が15日、中国の需要が急速に鈍化していることを一因として挙げ、2024年の世界の石油需要の伸びを日量122万バレルと当初予想から下方修正したことが引き続き弱材料視された。中国人民銀行(中央銀行)が20日、住宅ローンの基準金利を引き下げたとの報への反応が限定的だった半面、原油先物相場が前週後半に約3カ月ぶりの高値圏で高止まりしていたこともあり、利益確定の売りも出やすかった。一方、イスラエルのネタニヤフ政権が3月10日ごろに始まるイスラム教のラマダン(断食月)の期間中も軍事作戦を継続するとの観測が広がっている。

●19日、大統領の日のため休場。

●21日、WTIは77.91ドル(前日比-0.27)。需給の先行きを巡る不透明感を背景に、朝方までは売り買いが交錯。米金融引き締め政策の長期化が景気を冷やし、エネルギー需要に影響が及ぶとの懸念が根強い一方、パレスチナ自治区ガザではイスラエルとイスラム組織ハマスとの停戦合意が見通せない状況が続き、供給混乱拡大への不安がくすぶっている。ただ、もみ合い後は徐々に買いが優勢となり、ジリ高で推移した。地政学的リスクの高まりをにらみ、欧州や中東のオイルハブでは原油・石油製品の在庫が減少。また、米製油所のメンテナンス期間が明け、原油の処理が加速するとの見方も相場を支えました。

2月22日 16:00現在 WTI原油 78.17ドル 為替 1ドル 151.55円



	次回元売変動予測	
	2/29~	元売変動予測
ガソリン	→	-2.0~-1.5
灯油	→	-2.0~-1.5
軽油	→	-2.0~-1.5
A重油	→	-2.0~-1.5
LSA	→	-2.0~-1.5

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+3.5円」、補助金は、「-21.3円・60%」、都合「1.6円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの19日時点の小売価格平均は174.3円となっております。

《2月29日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円~1.0円」、激変緩和補助金は「-21.8円・60%」の見込みで、都合「-2.0円~-1.5円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「-1.5円~-1.0円」
 ※激変緩和補助金「-21.8円」 前週比-0.5円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<NIMS、60°Cで1000時間以上の連続発電に耐えるペロブスカイト太陽電池を開発>

物質・材料研究機構(NIMS)は、ペロブスカイト太陽電池の新技術に関する成果を発表しました。この開発では、20%以上の光電変換効率を維持しつつ、60°Cの高温下で1000時間以上の連続発電に耐えられる1cm角のペロブスカイト太陽電池が実現されました。この成果は、NIMSの研究チームによる共同研究で達成され、英オンライン科学誌「Nature Communications」にも掲載されました。

ペロブスカイト太陽電池は、低温プロセスで製造されることから製造コストが抑えられる可能性があります。水分による劣化が課題でした。研究チームは、表面や界面の欠陥を改善するために界面制御を重視し、耐久性を向上させることで成果を上げました。今後、研究チームではペロブスカイト太陽電池の高効率化や高耐久化と同時に、屋内での疑似太陽光照射に加えて、実際の太陽光を照射する屋外試験を行いながら、加速試験の方法の確立を進めるとしています。

[出典] マイナビニュース <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20240207-2879085/>